「百人一首」の歌人を知ろう　　３年(　)組(　)番　名前(　　)

①「百人一首の世界」のコンテンツ「和歌の味わい」から歌と現代語訳を清書し、歌の情景（季節、場所）、歌の背景、歌人の思いを確認しましょう。

②「歌人紹介」などのページを調べて、百人一首の魅力を伝える推薦文を書きましょう。

③推薦文をもとに「百人一首」の魅力を伝えるリーフレットを作りましょう。

２番 **持統天皇**	**【春過ぎて夏来にけらし白妙（しろたへ）の 衣ほすてふ天（あま）の香具山】** **現代語訳**いつの間にか春が過ぎて、夏がやってきたらしい。夏になると真っ白な衣を干すといわれている天の香具山に。（あのように衣がひるがえっているのですから）。
３番 **柿本人麻呂**	**【　　】** **現代語訳**
４番 **山部赤人**	**【田子の浦にうちいでて見れば白妙（しろたへ）の富士の高嶺（たかね）に雪は降（ふ）りつつ】** **現代語訳**田子の浦に出て遠く見渡せば、真っ白な富士の高い嶺（みね）に、今も雪が降り続けていることだ。
６番 **大伴家持**	**【　　】** **現代語訳**
８番 **喜撰法師**	**【わが庵（いほ）は都のたつみしかぞ住む世をうぢ山と人はいふなり】** **現代語訳**
９番 **小野小町**	**【　　】** **現代語訳**
12 番 **僧正遍昭**	**【　　】** **現代語訳**
17 番 **在原業平**	**【　　】** **現代語訳**
18 番 **藤原敏行**	**【　　】** **現代語訳**
22 番 **文屋康秀**	**【吹くからに秋の草木のしをるればむべ山風をあらしといふらむ】** **現代語訳**山から秋風が吹くと、たちまち秋の草木がしおれるので、なるほど、だから山風のことを「嵐（荒らし）」というのであろう。

23 番 大江千里	【月見ればちぢにものこそ悲しけれわが身ひとつの秋にはあらねど】 現代語訳
35 番 紀貫之	【人はいさ心も知らずふるさとは花ぞ昔の香ににほひける】 現代語訳人の心は移ろいやすいものだから、あなたのお心は、さあどうだかわかりませんが、昔なじみのこの里の梅の花だけは、昔のままの香りで咲き匂っていますね。
36 番 清原深養父	【夏の夜はまだよひながら明けぬるを雲のいづこに月やどるらむ】 現代語訳
86 番 西行法師	【　　】 現代語訳
89 番 式子内親王	【玉の緒よ絶なば絶えねながらへば忍（しの）ぶることのよわりもぞする】 現代語訳私の命よ、絶えてしまうのなら絶えてしまえ。このまま生き長らえていると、耐え忍ぶ心が弱ってこの思いを隠すことができなくなってしまうといけないから。
97 番 藤原定家	【　　】 現代語訳

百人一首の歌や歌人を調べて、初めて知ったこと、感動したことをメモしましょう。